

清恵会医療専門学院 第2看護学科

自己点検・自己評価による評価及び学校関係者評価

	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法・ 特記事項	学校関係者	
		評価	現状・具体的な取り組み等		評価	特記事項
1 教育理念・目的・ 育人材像	1-1 理念・目的・育人材像は、定められているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	入学案内、ホームページ上で、理念と特長についてを明確にしている。入学後は、早期に教育カリキュラムガイダンスを用いて、説明を行っている。各学年では、クラス目標として、機会毎に理念から関連付けて学生に意識を持たせている。	教育理念・目的・目標は学則に定めている。入学時オリエンテーションでガイダンスを実施しているが、学生が学校生活の中で理念・目的・育人材像を常に意識して学習や教科外活動に取り組んでいるかという点、不十分である。学生が理解をしたうえで目的・目標に向かえるように更に意識を高めていく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	理念・目的・育人材像は学則に定められ、また専任教員に理解されている。また、専任教員はその理解のもとで教育活動を行っている。課題としては、学生への早期理解の徹底が挙げられる。
	1-2 育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育理念・目的・目標から各学年到達目標を設定している。入学案内にも、有資格者としてさらに専門職業人としての成長が図れるように知識・技術・感性を高め、社会の動向に対応できる応用力が求められることを掲げている。今後、保健・医療・福祉チームの中心となり地域で活躍できる看護師の育成も必要であると考えている。	教育理念にあるように「社会の変化に対応できる看護専門職を育成する」ために、自ら学び、主体的に行動できる学生を育成している。また、卒業時には、科学的根拠に基づき、対象に応じた看護が実践できる看護師になれるようにと考えているが、学生にも、社会で求められる看護師像を意識していけるように、社会の動向に関心を持たせていく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	100%の就職率から育人材像は業界の人材ニーズに適していることが証明されている。今後も母体病院や実習施設等から得る情報を精査し、変化に柔軟に対応することを期待する。
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育理念にあるように、感性と教養を高め、幅広い人間関係と科学的思考ができるような科目を設定している。また、自己学習力や発信力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れている。各実習前には、社会人、医療人としてのマナーを身につけ、実習に臨めるようにマナー教育、看護倫理、医療安全の学習を行っている。学外活動は少ないが、感性を高める目的で文楽鑑賞を取り入れている。	第1・第2准看護学科、理学、放射の学科があるため、その特徴を生かした科目設定や、演習、学習を取り入れ、学科間の連携を図る。また、地域との交流ができる行事を取り入れ、地域で対象を支える看護の必要性や看護師の役割を学ばせたい。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	病院附属の特長と少人数制教育で培われた経験を活かしながら、他科と情報を共有し、アクティブラーニングにも取り組んでいる。
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	現在、通信制教育制度の変更により、2年課程の入学希望者が減少している。その中で、選ばれる学校になるために、准看護学科併設の特徴を生かして、5年一貫教育を打ち出している。次年度の入試は、男子学生の募集も決定している。また、地域との繋がりを生かした学校行事や理学・放射科併設の強みを生かした多職種連携教育を考えている。	現行の教育内容の評価を進め、カリキュラムの見直しを継続していく。今後のカリキュラム改正に向けて、早期の点検・見直し、検討を計画的に、具体的に進めていく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	校舎・設備等の老朽化から将来構想の策定が急務である。第二学院も含めた看護学院の今後のあり方を、法人全体で早急に検討し方向性を決定する必要がある。
2 学校運営	2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	法人より、中長期経営計画が打ち出され、学院の課題と戦略の方向性が掲げられている。それを基に、教育理念に沿った教育方針から学校の運営方針を立てている。年度初めに科長会議に諮られ、その後各科の教員に方針が伝達されて共通理解に繋がっている。	年間の運営方針についての評価を、各教員が中間評価、最終評価として行った。その評価時に意識は高まるが、常に運営方針を意識した状態で業務に取り組めるようにしていく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	2019年度～2023年度中長期経営計画にて策定した“ありたい姿”経営計画マスタープランと事業戦略を理解し、目標達成に向けた取り組みを行っている。

2 学校運営	2-2 理念等を達成するための事業方針を定めているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学校運営方針と教育方針をもとに、各学年担任が年間の学年目標をたてている。前期・後期で目標に沿って進めることができたかの評価を行っている。同時に、個人目標の設定も行い、年度末に評価を行っている。	学年目標に対し、授業、実習、教科外活動を進めて行く中で、目標の達成度を確認していくために、年度末に面談を行っている。中間での面談も行い、見直し、課題の明確化を行う。個人目標に対しては、目標設定、中間評価、最終評価の面談を継続していく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	2019年度～2023年度中長期経営計画にて策定した“ありがたい姿”経営計画マスタープランと事業戦略を理解し、目標達成に向けた取り組みを行っている。
	2-3 学校運営のための組織を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学校運営にあたり、組織図のもと、教務会、科長会、主任会、その他各種委員会を設置し、科長・主任が中心となり委員会を開催している。学校運営のために、各委員会での役割を遂行すべく、月1回の委員会の中で協議を行っている。	委員会活動は定期的実施し、年度末に委員会活動の報告を行っている。今後も社会の動向や看護教育現場で必要とされていることを情報収集し、活動を継続していく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学院運営委員会を設け、学院の管理・運営の適正を図るため、必要な事項を月1回実施する会議にて審議し決定している。
	2-4 教員の組織体制を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学校の組織は、学院長、事務長、教務部長、教務副部長、教務科長、教務主任、専任教員で構成されている。各学年は、担任制をとり、それを補佐する教員を配置している。各学年の運営には、科長、主任が指導・管理にあっている。実習に関する事項は、主任が役割を担っている。	専任教員は、規程の人員を満たしていない。そのため、担任を補佐する教員数の不足がある。授業や実習は他学科との協力が不可欠である。教員の専門性や、学生の特徴を踏まえた教育体制を整える必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教員の業務分掌及びサービスに関する規程を定め、組織体制を整備している。
	2-5 人事・給料に関する規程等は策定されているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	人事については設置主体法人の規程に基づき、法人理事会で決定される。給料規定も策定されている。	人事・給料に関する規程は定められている。役割等級制度も明確化しており、毎年定期的に人事評価が行われている。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	人事・給料に関しては2018年度より設置主体法人の規程する役割等級制度に基づき、適正に運営されている。
	3 教育活動	3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針を定めているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育理念に基づいたカリキュラム構成のもと、年次毎の教育内容、実施方針を編成している。専任教員には周知を図ったうえで、学生にも入学時に説明し、周知を行っている。	教育理念に基づいて、各分野の科目構成がされており、実施方針を定めている。専任教員の周知を徹底し、実施方針に沿った授業、実習内容への見直し、検討が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要
3-2 修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか		4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育カリキュラムガイダンスには、「学年別到達目標」として、教育目標に沿って各学年次の到達目標を明記している。	教育到達レベルは明確にしているが、評価基準が明確ではなかったため新たに作成し、学生と教員で統一した評価基準となるようにした。その評価基準で実施し、結果を分析していく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしており、専任教員と外部講師、また学生にも周知が図られている。

3 教育活動	3-3 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育目的・目標に沿って、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」「臨地実習」を構成している。各分野の考え方や、どのような学生を育成したいかを挙げ、科目設定を行っている。各授業科目には、シラバスがあり、始講時に学生に配布、周知している。	カリキュラム改正に向けて、早急に教育内容の見直しが必要である。教育理念・目的・目標に沿った科目設定となっているか、重複はないかを検討し、社会の動向・ニーズに対応できる看護専門職の育成に繋がる教育課程の編成を行っていく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育目的・目標に沿った教育課程が編成されており、専任教員と外部講師、また学生にも周知が図られている。
	3-4 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	当学科の学生は有資格者の学生のため、内部・外部講師とは教育課程をもとに、学生のレディネスに合わせた講義内容になるよう調整を図っている。実習関連施設とも実習調整会議を行い、意見を反映させている。	教育課程の内容をもとに、外部講師や実習関連施設と連携・調整を行い、さらに効果的な教育へと繋がるよう、協力を図っていく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	実習先や外部講師、現場で活躍する卒業生からの意見を積極的に取り入れ、教育課程に反映させている。
	3-5 キャリア教育を実施しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	専門職業人としての高い知識・技術・感性を身につけ、医療チームの中心となる看護師の育成を目指している。教育内容は准看護師教育からさらに高度な内容を心がけ、各学年目標においても、教育内容や教科外活動と関連して学びが深まるように設定している。	准看護学科での教育基盤を、応用力や科学的根拠に基づいた看護に繋げられるよう、教育を実施している。准看護学科での既習内容と重複せず、より専門性の高い教育を提供していく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	職業人教育は入学後直ぐに始めており、様々な行事等に学生全員が主体的に取り組むことによって自律性と協調性を高める努力が行われている。
	3-6 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 優れている 3 ほぼ適切 ② やや不適切 1 改善が必要	看護師養成所設置基準に規定された専任教員の数が確保できていない。すべての専任教員が看護教員養成講習会を受講しているわけではなく、教員の経験年数が多様である。	資格・要件を備えた教員確保に向けた努力を継続する。そのためには、教員養成講習会受講のための協力体制を強化する。新人教員が離職せずに定着していける職場環境を整備することが必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	資格・要件を備えた教員を確保する努力を継続して行っている。課題としては、大阪府看護教員養成講習会未受講教員の講習会受講が挙げられる。
	3-7 教員の資質向上への取り組みを行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各教員は、専門領域の研修に年1回は参加するように、目標として掲げている。個人的に自己研鑽を年間目標に挙げ、達成に向けて努力をしている。年4回の教務会の中では、伝達講習や資質向上のための勉強会等、取り組みを行っている。	業務改善と教員の協力体制の強化を図り、各教員の経験に応じた、資質向上のための研鑽を積めるようにする。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	協会等の主催する研修会や学会に参加しており、教育の資質向上への取り組みを行っている。
	3-8 授業評価を実施しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	外部講師、学内教員ともに、授業評価を全科目行った。実習評価は、中間評価で課題の明確化を行い、最終評価へと繋げるようにした。学習の4段階評価と基準を同じく行えるように、実習評価の評価項目・基準を見直し、移行中である。	授業評価、実習評価共に、評価内容の分析、次年度への課題の抽出、改善に向けて進めていく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	授業評価を実施している。リアクションペーパーを活用する等FD活動に教員全員で取り組んでいたきたい。

3 教育活動	3-9 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学則・成績査定内規により、「単位認定」「学習評価」「追・再試験」「臨地実習評価」等の科目履修許可及び卒業に関する必要事項を定めている。また、留保された科目についても「認定試験」として規定を定めて運用している。	各科目の出席状況は、学生と共に把握しており、時間数不足で単位に影響が出ないように管理している。年度末には、進級判定・卒業判定として成績査定内規に沿って成績を出している。成績・出欠に関しては学生の自己管理であるが、意識としては低い。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用している。課題としては、全学生及び保護者への評価した成績の公開が挙げられる。
	3-10 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各学年で行った行事、学習、実習については、学内で発表や報告会を行っている。クラス内だけではなく、他学年の学生や教員も報告会に参加し、双方に学びや刺激となり、共有ができています。	実習の成果は、学内で学生、教員のみで発表を行っている。異学年同士で学びを共有することで、刺激となっているため、継続していく。実習指導者の参加があると、学生や学生の学びの成果を知る機会となる。また学内のみでなく、外部に向けて学びを発表し、いけるように看護研究についての意識を高めていく。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各種の発表における成果を把握している。
	3-11 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているのか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	看護師免許を取得するにあたり、教育課程の中の各分野で、何を学習するのかを入学時から学生に説明している。教科外活動や各実習においても、目的・目標があり、その都度何を学んで、最終的に各自が目標とする看護師像に近づけるのかを意識させている。	入学時の教育課程の説明時に、専門職業人として、准看護師教育の基盤の上に高い知識・技術・感性を身につけることの必要性を伝えている。学生は、各科目の必要性や実習での学びを繋げて考えることができているのか、学期及び学年ごとに意識の確認が必要である。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	目標とする看護師国家資格の取得は、教育課程上で明確に位置づけられている。
	3-12 資格・免許取得の指導体制はあるか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	国家試験委員を中心に、計画を立て対策を行っている。国家試験対策は1年次から行い、2年次、3年次で段階的に内容を変えて取り組んでいる。学習課題は学生の弱点、得意分野を把握したうえで選択している。学習成果の上がない学生には個別面談を行い、学習支援を行っている。	1年次は学生の意識として低いのが現状である。本格的に対策に入るのが、3年次の実習終了後であり、学生の不安も大きくなる。それまでに学生が主体的に国家試験を意識した学習を行えるように支援する必要がある。学習面だけでなく、精神的サポートも教員間で統一していく必要がある。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	看護師国家資格の取得のための指導体制は整っている。
4 学修成果	4-1 就職率の向上は図られているか	4 優れている 3 ほぼ適切 ② やや不適切 1 改善が必要	准看護師免許を有している学生であるため、各施設で業務を行いながら、その施設での奨学金制度を受けている。卒業後は奨学金貸与施設への就職が多く、法人就職者は、30名中4名であった。	法人から打ち出された、法人への就職の目標は第2看護学科で5名となっている。教務部長より、就職面談が前期に行われるため、継続して実施し、就職困難者を出さないようにする。就職先が未定の学生には法人への就職を検討するよう働きかけを行っていく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	就職率の向上は図られている。学院創立以来、就職率100%を維持しているが、今後も継続を期待する。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	1年次より国家試験対策に取り組み、2019年度の国家試験合格率は100%であった。	2018年度の合格率が低下したため、原因と対策、課題を明確に打ち出している。年度により学生の様相は変化するが、2018年度の課題をふまえて、100%合格を継続するために、各学年での国家試験対策を強化していく。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	対策授業や補講、模擬試験の実施等、看護師国家資格の取得率の向上を図るために努力は行っている。国家試験対策委員と連携し、全教員での取り組みを継続していただきたい。

5 学生支援	5-1 学生相談に関する支援を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各学年とも5月に個別面談を行っている。担任より学生の状況報告が科長にあり、学科会議でも報告があるため、学科教員全体で学生の情報共有、サポートができています。学生には入学時に、法人の担当者にカウンセリングの相談が行えることを伝えている。	法人でのカウンセリングを希望する場合は、教員にも報告する必要はないとしている。そのため、相談の実態は把握できていないが、常に学生に関心を持ち、教員から声をかけ、相談しやすい環境を作ることが必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学生相談に関する支援は整備されている。労力が必要とされる様々な相談への対応を、相談しやすい環境を維持しながら、今後も継続していただきたい。
	5-2 学生の経済的側面に対する支援を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	法人修学資金制度を積極的に周知し、また学費の猶予・分納相談にも対応し支援を行っている。日本学生支援機構の申込み事務手続きの支援も行っている。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学生の経済的側面に対する支援は整備されている。
	5-3 保護者との連携体制を構築しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学科行事が少なく、学生が有資格者であり、自立生活者が多いため、保護者との連絡、連携は少ない。成績に関することや、進級に関する連絡・調整の必要性がある場合は、受験時の連帯保証人にあたる人物に連絡をとるように統一している。	学科として保護者説明会を行う予定はないが、保護者からの苦情が多くなっている現状では、今後検討が必要である。自立した社会人学生ではあるが、自分で判断し、行動できる学生も少なくなってきたことは考慮していく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	保護者との連携体制は構築されている。課題としては、全学生及び保護者への評価した成績の公開が挙げられる。
6 教育環境	6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教室の環境は40人対応の広さである。パソコン等の機器類は各クラスに設置しており、視聴覚教材は整っている。看護教育に必要な設備・用具は最低限揃っているが、物品の古さや使用頻度の少ないものが多くある。建物自体も築年数が経ち、老朽化している。	指定規則上必要な物品は揃っているが、老朽化している物が多く、型も古くなっているため、定期的に点検を行い必要な物は購入し直すようにする。教員は、備品の使用方法の理解を深め、教育の場で活用していく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育上の必要性に対応した施設や設備、教育用具等整備はしているが、老朽化等により十分ではない。
	6-2 防災に対する体制は整備されているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	大地震発生時の基本方針は定められたが防災訓練を実施していない。また、帰宅困難時の備蓄や災害時安否確認のシステム構築ができていない。	築40年以上の校舎であることから、早急な耐震補強や備蓄、安否確認システムの構築が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	防災に対する基本体制は整備されている。が、校舎・設備等の老朽化から将来構想の策定が急務である。看護学院の今後のあり方を、法人全体で早急に検討し方向性を決定する必要がある。
	7-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	大阪府看護協会主催の研修会等に積極的に参加し、他の准看学校と情報提供等を行っている。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	接続する教育機関に対する情報提供等の取り組みは行われている。

7 学生の受入募集	7-2 学生募集活動を適切かつ効果的に取り組んでいるか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	准看護学校訪問に加え、業者主催の進学相談会や大阪府看護協会主催の進学相談会に積極的に参加し、またオープンキャンパスと学校見学会も積極的に実施している。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	准看護学校生徒の高年齢化と、通信制養成校の躍進により、受験生の減少が著しく、定員確保が難しい状況である。この厳しい状況を将来どの様にしていくのか結論をだすためには、看護学院の今後のあり方を早急に検討し方向性を決定する必要がある。
	7-3 入学選考基準を明確化し、適正に運用されているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	入学選考の可否は入学選考基準により適正に審査されている。また受験生は大きく減少しているのと、合格者の入学辞退が多かったため、目標の入学者32名の確保ができなかった。	准看護学科生徒の高齢化と通信制進学コースの躍進により、目標入学人数を確保するのが非常に困難な状況である。試験科目の見直しと、男子学生受け入れの検討をしていく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	入学選考基準については明確化し、適正に運用されている。
8 財務	8-1 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	予算及び事業計画は設置主体法人に報告・確認しており、計画に基づき適正に執行され、決算報告も適正に行っている。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	予算・決算については適正に行われている。
	8-2 財務について会計監査が適正に行われているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	社会医療法人会計基準に基づき、公認会計士による監査を受けている。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	財務について会計監査が適正に行われている。
9 法令等の遵守	9-1 法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	法令・設置基準は守られ、適正に運営されている。
	9-2 個人情報保護に対する対策を講じているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	実習に関する個人情報の遵守は、各実習前オリエンテーションで説明を行い、誓約書を記入、持参して実習に臨んでいる。個人情報を守れなかった場合の懲戒処分についても学則、実習ガイダンスに記載したものを説明している。教員も学生の個人情報保護に努めている。	実習に関する個人情報保護は規定通り遵守できているため、現行のまま継続していく。学生同士のSNSでのトラブルについて、学則で規定を定めているが、学生の意識としては低いため、機会教育を行っていく。教員も自身がまず情報管理を徹底していく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	個人情報保護規程を定めている。

9 法令等 の 遵 守	9-3 自己評価の実施と 問題点の改善を 行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	実習評価は、内容を改善し教員と学 生が内容を共有できるものにし、進め ている。授業評価についても全科目の 評価を実施した。	自己点検・自己評価を実施し、学校の 現状、問題点の把握ができた。今後 は、教員全員で自校の教育の現状を 共有、見直し検討をしていく必要があ ると考える。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	自己評価の実施と問題点の改善 を行っている。
	9-4 自己点検結果を公 表しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	ホームページ上に公開。	特記事項なし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	自己点検結果は公表されている。